

# 最上小国川清流未来ニュース

平成 28 年 12 月 20 日 発行  
最上小国川清流未来振興機構

第5号

## 最上小国川流域で活動されている方々による情報・意見交換会(まちカフェ)を開催しました。

11月25日(金)に最上町中央公民館で、日ごろ流域で活動されている方々による情報や意見の交換会「まちカフェ」を初めて開催しました。

今回は、「きれいな最上小国川は地域の宝物」をテーマに、美化活動などに取り組む方に参加いただき、それぞれの活動内容の紹介や活動にあたっての課題、きれいな最上小国川を将来に残していくためのアイデアなどをお話いただきました。



## 1 先進事例の紹介



大泉茂さん

はじめに、美しい最上川・山形づくりへの取り組みについて、美しい山形・最上川フォーラムの大泉茂さんからお話をうかがいました。

美しい山形・最上川フォーラムは、全国そして世界に誇ることができる最上川を次代に引き継ぐため、人々が交流し合い生きがいを持って快適に過ごすことができる山形をつくることを目的に、平成13年に設立したこと、県民、NPOや、事業者、大学、行政が、対等な立場でさまざまな課題に取り組んでいること、その一例として、身近な川や水辺の健康診断(水質調査)、スポーツGOMI拾い大会を御紹介いただきました。

特にスポーツGOMI拾い大会には、若い人が積極的に参加しているとお話をいただきました。

## 2 グループディスカッション

新潟県を中心に、多様な地域づくりのプランニング・コーディネートに携わっているNPO法人都岐沙羅パートナーズセンターの斎藤主税さんをコーディネーターに迎え、グループディスカッションを行いました。

最初に、自己紹介も兼ねて、参加者にとっての最上小国川での思い出を、それぞれ発表していただきました。

その後、参加者約40名が6グループに分かれ、日ごろの活動内容の紹介や活動にあたっての課題、きれいな最上小国川を将来に残していくためのアイデアを出し合いました。最上小国川清流未来ニュースでは、意見の一部を紹介します。



斎藤主税さん



### 参加者から出された主な課題

### 参加者から出された主なアイデア

川にゴミが多い

生活ゴミや生活排水が川に流れる

川に支障木や流木が多い

小学校や父兄等を巻き込んで、ゴミ拾いのイベントの開催

ゴミを拾って現状を知る

子どもたちが川で遊ぶイベントの開催

鷺(さぎ)が多くなっている

葦(よし)が多い

子どもたちが川で遊ぶ機会がない

子どもが川を直接見て、川を守る子どもを育てる

女性用トイレの設置

車イスの方でもできる釣り場を作る

きれいな川を維持するための活動の後継者の育成

魚の種類が少なくなった

魚の調査やホタルを育てながら川をきれいにする

支障木をバイオマスに活用

### 3 意識の共有(参加者全員で投票)

最後に、参加者全員で、出された意見について、「共感する意見」「すぐに取り組みそうな意見」に投票してもらいました。投票の結果、「共感する意見」では、「川にゴミが多い」「生活ゴミや生活排水が川に流れる」「川に支障木や流木が多い」「子どもたちが川で遊ぶ機会がない」といった意見に票が集まりました。

「すぐに取り組みそうな意見」では、「支障木をバイオマスに活用」「女性用トイレの設置」「車イスの方でもできる釣り場を作る」といった意見に票が集まりました。

「小学校や父兄等を巻き込んで、ゴミ拾いのイベントの開催」は、「共感する意見」及び「すぐに取り組みそうな意見」の両方から票が集まりました。

機構では、今年度中に、2回目を開催します。



### 最上小国川流域の振興に向けた取り組み(第2回)

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取り組みの中から「川の駅でのイベント開催」について紹介します。

国道47号沿いにある「川の駅ヤナ茶屋もがみ(産直四季の香)」では、新鮮で安心安全な農産物、山菜など地域の特産や逸品を直販しています。

産直四季の香では、年に数回イベントを開催しています。

6月4日には、最上の山々で採れたみずやたけのこなど山菜を豊富に使った『山菜なべまつり』を開催しました。10月16日には『秋の収穫祭』を開催し、いも煮を提供しました。



#### 【お問い合わせ先】

最上小国川清流未来振興機構(山形県最上総合支庁総務企画部総務課連携支援室内): 29-1240

※ 最上小国川清流未来振興機構のホームページでも、流域での地域づくり活動・観光情報などを掲載していますので、是非ご覧ください。(http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/)